

第4回久御山町環境基本計画（久御山町地球温暖化対策実行計画
「区域施策編」含む）策定委員会

1 日 時 令和5年2月22日（水） 午後2時00分～4時00分

2 場 所 久御山町役場議会棟4階特別会議室1・2

3 出席者 委 員：8名
オブザーバー：2名
事 務 局：7名
委託事業者：3名

4 内 容

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 報告事項

（1）久御山町環境基本条例の制定について

（2）久御山町環境基本計画の策定に係る基礎調査（アンケート調査及び地域特性調査）の
結果報告及び課題整理について

4 協議事項

（1）久御山町環境基本計画に係る目指すべき将来像、基本方針の検討について

（2）久御山町環境政策プロモーション事業案について

（3）久御山町環境の日にあわせたイベント開催案について

5 その他

（1）久御山町環境審議会設置要綱について

（2）住民ワークショップの開催について

6 閉会

議事要旨

次第2 委員長あいさつ

次第3 報告事項

(1) 久御山町環境基本条例の制定について

(事務局より資料1に基づき説明)

●説明概要

- ・令和4年6月の第1回計画策定委員会から検討を重ねてきた「久御山町環境基本条例」について、令和4年久御山町議会12月会議において可決されたことを報告。
- ・本条例は令和5年4月1日に施行となっており、今後は条例の周知・広報を積極的に実施していく。

●主な意見・質疑応答

特になし

次第3 報告事項

(2) 久御山町環境基本計画の策定に係る基礎調査（アンケート調査及び地域特性調査）の結果報告及び課題整理について

(委託事業者より資料2、3に基づき説明)

●説明概要

- ・資料2により、環境基本計画の策定に係る住民・事業所・中学生アンケート調査結果を報告。
- ・住民アンケート調査における設問5「環境に関する取組」については、各項目において「関心・興味」がある方が半数以上と多く環境への意識が高いことがうかがえる一方で、「イ. 脱炭素社会の形成」の割合が低くなっていることから、脱炭素社会に関する啓発や周知、情報提供を適切に行うこととあわせて環境学習・活動の機会を創出する必要がある。
- ・事業所アンケート調査における設問2「開発と環境保全のバランス」については、「地域の発展や便利さにつながる開発を進めた分と同等の環境保全を行うべき」という回答が最も多くなっているが、一方で環境保全に取り組むうえで「情報が不足している」という回答もあがっていることから事業所への効果的な情報発信を行う必要がある。
- ・そのほか、今回のアンケート調査をより深く分析して課題を整理し、計画に定める施策に繋げていく。

●主な意見・質疑応答

(委員等)

久御山町において今回調査を行ったが、久御山町の特徴や全国的な傾向はどのようなものでしょうか。また、今後どのような分野に取り組んでいけないといけないのか。そのあたりの分析はいかがでしょうか。

⇒ (委託事業者)

全国的な傾向としては、自然を残しながらいかにカーボンニュートラルを目指すか。

特に地域独自の資源を残しながら再エネを展開していくのが共通の考えかと思います。

一方、久御山町の特徴としては事業所が多いことから事業所の協力なくしては脱炭素の実現は不可能であると捉えています。

また、アンケート結果を見ても環境に関して取り組もうとしても情報提供がなかったり、障害になるものがあるといったご意見も見受けられるので、ワークショップやヒアリングを行いながら一緒にやっていくことが重要であると考えています。

(委員等)

情報提供の仕方について、どのような情報をどのようなかたちで提供すれば効果的であるかご教示ください。

⇒ (委託事業者)

例えば会議形式での話し合いではなかなか意見が言いにくいいため、個別のヒアリングやワークショップで抱えている問題点を聞き出して情報提供を行っていきたいと考えています。

また、今回の事業所アンケート調査の中で、人材不足や資金不足といったご意見があったほか、「本社に聞いてみなければわからない」といった意見があったことが印象的です。そういった部分もふまえて課題の把握と情報提供を行っていきたいと考えています。

(委員等)

久御山町の場合、産業部門の比重が多いのに、事業所アンケートの回収率が17%となっています。残りの83%の事業所の方は関心が無かったり消極的であると思われるので、施策として進めるにはやや楽観的かと思います。

また、若い女性や高齢者などそれぞれにピントを合わせたメッセージの出し方はだいぶ違うため、そのあたりを考えていただく必要があるのではと思います。

⇒ (委託事業者)

ご意見ありがとうございます。アンケート調査につきましては、今回は速報版としてお出ししていますが、今後クロス集計を行い、性別・年齢と設問をかけあわせて分析し、施策に反映させていきたいと考えています。

(委員等)

今のご意見に関連する部分であるが、住民アンケートの場合は70歳以上の回答が多く、偏った調査結果であると感じています。そういう意味では60歳以上と59歳以下でクロス集計を行っていただきたいと思います。

また、事業所アンケート調査においても10名以下の事業所の回答が圧倒的に多くなっていることから、資金不足・人材不足は聞かなくてもわかることかと思います。

それにあわせて情報が不足しているということも他地域と共通している部分であるため、どう工夫していくかが課題であると思います。

この先の話になると思いますが、どのような情報提供が必要かについて、Scope 3 (※)を含めての対策が必要になると思います。また、RE100は国内でも78社入っていますが、町内の企業もその78社に関連する企業はたくさんあると思います。そこをピックアップして「カーボンニュートラル経営の現在の風潮」をインプットするだけで切迫感はずいぶん違ってきますので、

そういった点で工夫できるかと思えます。

※Scope 3・・・事業者自ら排出している温室効果ガスである Scope 1（事業者自らの直接排出）、Scope 2（他社から供給された電気・熱等の使用に伴う間接排出）以外の事業者の活動に関連する他社の温室効果ガスの排出量。

⇒（委託事業者）

アンケート結果については、自宅に滞在される割合の多い高齢者に偏ってしまう傾向がありますが、後ほどご報告させていただくワークショップ等で若い世代の方やアンケート対象外となった方々のご意見を拾っていきたいと考えています。

事業所に関しては、それぞれの状況があるので、今後は個別にヒアリング等を行い、状況把握に努めていきたいと思います。

（委員等）

事業所は会社規模によって傾向にかなりの違いがありそうなので、例えば10人以下の事業所とそれ以外といったかたちで母数を分けて分析していただければと思います。

それと中学生アンケートの結果について、この意識の高さは何か理由があるのでしょうか。例えば久御山町の環境教育の現状などあれば補足的にご教示いただければと思います。

⇒（事務局）

中学生向けという訳ではないですが、省エネ対策学習会を年に数回開催し、環境学習に努めています。また、あわせて町内3小学校の5年生を対象に地球温暖化チャレンジシートというものを実施しています。これは省エネに関する項目がいくつか設定されており、生活の中でできたものにシールを貼るというもので冬休みの課題として実施しています。

その他、自然環境教育として自然と触れあえる施設に小学生を連れて行くといった取組を行う中で、町内の小学生が久御山中学校に進学していき、この結果に繋がったということが考えられます。

（委員等）

ちなみにヨーロッパに行くと、ニュースを見ても3分の1くらい環境のニュースが流れるなど、環境に関する情報発信が盛んであり、環境意識が高まる要因となっていると思います。

（委員等）

資料2の1ページ目の設問5「環境に関する取組について」の中で、「ア.地球温暖化の対策」や「ウ.再生可能エネルギーの利用促進」は「関心がある」が結構高くなっていて、一方で「イ.脱炭素社会の形成」の割合は低い。しかし、アとウを足してみれば脱炭素社会になるという話になりますが、脱炭素社会とは何かというイメージがまだ共有できていないと思います。今後、住民の方々に脱炭素社会を説明していく際に、町の地域特性や目指すべき将来像とあわせる形で説明していく方が良いと思います。

さらに言うと、設問3「将来の久御山町の環境について」の中で「災害に強いまち」の関心が高くなっていますが、これも含めて脱炭素社会の一つであります。脱炭素社会は省エネ対策や再生エネだけではなく、気候変動の影響にも備えていくという部分において、災害に強いまちづくりに資するものであり、非常に広い概念であります。そういうものをみんなで目指していこうという説明が必要であると考えます。

もう一点、資料2の中の分布図の説明の中で、左上（A満足度が低く、重要度は高い）をターゲットにするという話でありましたが、むしろ気になったのは左下（C満足度が低く、重要度も低い）の方に脱炭素に向けての内容があり、逆にいうとそれは無関心であるということ。町としては、この無関心層にいかにかアプローチしていくかが重要であると思います。

さらに資料2の3ページ目の事業所アンケートの設問22「カーボンニュートラル（脱炭素社会）に関わる事業状況」の中で「行っていない」が大多数となっており、今後の脱炭素社会の形成を目指す中で事業所の協力は不可欠であるというのは間違いのないところですが、ここは少し揚げ足をとるような言い方かもしれませんが、「SDGsの貢献の視点をもった事業活動の展開を促す必要がある」というのは、おそらく促しても響かないと思います。なぜかというとな事業所自らが取り組むことによるメリット、WIN-WINになるという視点がなければ取り組んでいただけないと思います。先ほどの脱炭素社会の啓発という観点においても、取り組むことによって社会が良くなっていく、暮らしぶりが良くなっていくという部分を示していくと事業所の皆様にも取り組んでいただきやすくなるのではないかと思います。

次第4 協議事項

(1) 久御山町環境基本計画に係る目指すべき将来像、基本方針の検討について

(事務局より資料3、4に基づき説明)

●説明概要

- ・資料3により、計画全体の構成を説明。また、第4章の「久御山町を目指すべき将来像・基本方針」については特に重要な部分であるため重点的に考え方を説明。
- ・「久御山町を目指すべき将来像・基本方針」については、環境の保全、経済の発展、社会課題への対応が全て連携し、ともに発展していく「地域共生社会」の考え方をふまえ、将来像のキャッチフレーズを2案提示。

●主な意見・質疑応答

(委員等)

45ページの基本方針について、こういう目標を目指していくうえで、どういうことが出来るかということ住民の方々にも考えていただいて、その中で「こういうことなら出来るけど町にもこういう支援をしてもらいたい」というような主体性を強く意識してもらわないとうまく進まないかと思えます。

そして、住民、事業所、町の3者が連携していくことは必要ですが、担い手となられる方が非常に少なくなっています。20年前ですと60歳くらいの元気な方がやっていたが、今は65歳や70歳くらいまで皆さん働いていらっしゃいますので、かつての担い手だった人たちがいない。こういう現状の中で住民の動きをつくっていくことは新たに考えていかなければならない課題だと思いますので、久御山町としてより先進的な担い手育成の取組ができればすごく良いと思います。

(委員等)

基本方針の部分について、検討案ではどこにでもあるような基本方針となっているため、もう少し「久御山町らしさ」を入れた方が良いと感じています。

それと9ページに地域脱炭素ロードマップの記載があり、そこに「脱炭素先行地域」が図示されていますが、この部分は重要ですので、文章での説明を入れてもいいのではないかと思います。

また、11ページの「自然環境に関する動向」の中で、生態系の危機という部分をIPBES(※)の報告書で詳細に説明をしていますので、そのあたりの内容にも触れていただいた方が良いでしょう。

※IPBES(イプベス)・生物多様性と生態系サービスに関する動向を科学的に評価し、科学と政策のつながりを強化する政府間組織。

(委員等)

「久御山町らしさ」という部分は非常に重要であるかと思います。考え方として理想像を定めてそこに向かっていくという考え方もありますし、一方で久御山町としての重点施策を掲げることによって将来像を考えていくというアプローチもあります。そういった考え方で言いますと第5章(施策)や第6章(区域施策編・気候変動適応計画)を考えないと将来像の案1・案2を絞りきれないかと思います。

(委員等)

45ページの基本方針(1)の後半部分「太陽光をはじめ、再生可能エネルギーの可能性について、調査・研究をしながら導入を促進します」とありますが、どのように施策を展開していくのかイメージしづらかったので、どのような意図があるのかご説明をいただければと思います。

⇒(事務局)

本町における再生可能エネルギーの導入で効果的なものは太陽光発電であると考えています。その中で久御山町内における「太陽光発電のポテンシャルがどれぐらいあるのか」ということから「調査・研究をしながら」という記載にしております。

(委員等)

わかりました。それでいくと本文の記載ではご説明いただいた部分が反映しきれていないかと思います。先ほどもありましたとおり、「久御山町らしさ」という意味では、例えば「農地」という言葉であったり、「未利用地」といった言葉を使いながら、「久御山町内の地域資源を活用してさらなる再エネの導入」といったように、久御山町内のポテンシャルに対してどうアプローチしていくかを少し例示を入れると「久御山町らしさ」が見えていくのではないのでしょうか。

また、基本方針(2)の「SDGsの考え方を踏まえた」という言葉はよく使われますが、一般の方々に説明する際に、「何をしたいのか」ということが伝わるように言葉を少し工夫する必要があります。そして同じく「ゼロカーボンシティへの転換」という言葉についても資源循環という要素がおそらく入っているかと思いますので、この言葉の中では見えづらいかと思いますので、もう少しそういった言葉を浮かび上がらせるような工夫ができると良いと思います。

(委員等)

久御山町の社会経済環境のカテゴリーに入れた方が良くと思うのが、化石資源を使うこと

によってどれぐらいのお金が町域外に流出しているかといった説明があれば、いかに化石資源に依存し、また脱炭素によって得をしたというメッセージが含まれたら良いのではないのでしょうか。

(委員等)

34 ページにBAUのグラフがありますが、最終的にはこれをゼロにするための計画をつくられると思いますが、今現在ではどの程度をお考えでしょうか。

⇒ (委託事業者)

現在、算出しているところですが、先ほどもありましたとおり、久御山町における再エネの中心は太陽光発電になると考えますが、相当数を導入しないとゼロカーボンを達成できないと思われま。

その中で、事業所の排出量をいかに削減していくかがポイントになりますが、事業所ごとに排出量の削減に対して目標立てをされているところもあるかと思しますので、そういう部分も加味しながら考えていきたいと思ひます。

(委員等)

促進区域の設定に関しても久御山町の中でどの区域を設定していくかは今後の議論になると思ひますがいかがでしょう。

⇒ (委託事業者)

促進区域の設定につきましては、事務局と協議しながら詰めていく必要があると思ひています。

(委員等)

先ほど他の委員も仰っていたようにこれまで何億円かが町外に出ていっている、そしてこれからはそのお金が町内に還元されるという考え方をしっかりと伝えていけば住民サイドから促進区域をここに設定しようという動きもでてくると思ひます。

⇒ (委託事業者)

一点だけ補足としまして、久御山町は太陽光発電が中心となる。そして事業所が多い。また、農業も盛んであるという特徴があります。その中でソーラーシェアリングやソーラーカーポートの可能性等も検討する必要があります。

同時に次の施策段階で検討に入ってくるであろうPPAモデルを基本とした太陽光発電導入の展開があります。国の方でも初期投資のかからないPPAモデルによる導入を推進しておりますので、こういったモデルを今後周知していくことが重要であると思ひています。

(委員等)

中学生アンケートの中で「将来の久御山町を表すキーワード」について、「地域で作られた農作物が食べられるまち」という回答は、すごく久御山町の特徴ではないかと思ひています。44 ページの将来像にも食料とエネルギーの地産地消もしっかりと記載されております。

その中で「食の地産地消」という部分がダイレクトに環境に繋がるものではなく、農業と連携する部分になりますが、そういった施策が計画の中に落とし込めるものかどうか現時点での考えをお聞かせいただきたいと思ひます。

⇒ (委託事業者)

中学生アンケートにおいても地産地消の回答割合が高いことは久御山町の特徴であると捉えています。地産地消というのは運輸部門における物流の排出量の削減に大きな影響があるので、しっかりと施策の中に入れ込みたいと考えています。

(委員等)

先ほどから中学生アンケートの話が出ていますので、中学生に関してお話いたします。

中学生がSDGsに親しんでいるのは教科書で広くSDGsという言葉が使われ、特に国語の教科書でよく使われており、早い段階からSDGsの概念を学んでいます。

特に中学校では給食が導入された際に食器を一新したのですが、その食器に久御山町の名産の野菜をイメージしたキャラクターがイラストされ、また、久御山町で生産されるお米を給食に使っていただいていますので、彼らの意識の中では地元の大人が育ててくれたものを食べているという思いを持っています。

ただ、SDGsの概念は理解していますが、具体的に何をすればいいかはわかっていません。彼らは日常生活の中で何ができるのか。もしくは社会に出たときにどういう生き方をしたらSDGsに貢献できるのかはわかっていません。

そういったことから久御山町らしい計画を考える時に、子どもたちが自分たちの身の回りで行われているという手応えを感じさせてあげたいと思います。こんなことをして効果があるのかということでも価値観に訴えかける行動であれば彼らの将来の行動が変わってくると思います。

(委員等)

先ほどから基本方針の検討において「久御山町らしさ」というお話がでておりますので、事務局の方で、第3章第7節の「環境に関する課題とともに解決が望まれる地域課題」と基本方針を結びつけるような整理をしていただくとわかりやすくなると思います。

(委員等)

44 ページの将来像の項目で、「食料とエネルギーの地産地消」という記載がありますが、実際に久御山町の中で食料を消費しているか疑問です。久御山町で生産された野菜を町内で販売するルートは少なく、専業農家などは大きな市場などを通じて販売しますので、町内で消費されているとはいえない現状であると思います。今後このあたりを推進する具体的な施策を期待します。

(委員等)

将来像について、できるだけ住民の方にも考えていただくとか案を募集したりすると住民の方々にも広がるのではないかと思います。

(委員等)

細かい部分ですが、基本計画第3章第5節「久御山町の地球環境」というのは言葉としてはふさわしくないと思いますので、適切に修正いただきたいと思います。

次第4 協議事項

(2) 久御山町環境政策プロモーション事業案について

(3) 久御山町環境の日にあわせたイベント開催案について

(事務局より資料5、6に基づき一括説明)

●説明概要

- ・資料5により、令和5年度に実施を検討している「環境政策プロモーション事業案」を説明。
- ・プロモーション事業案については、久御山町を環境ブランド力の高いまちとして町内外へ効果的に周知するとともに、住民のシビックプライド（まちに対する住民の誇り）の醸成やまちの魅力向上につながるような取組を目指す。
- ・資料6により、「久御山町環境の日」（6月5日）にあわせたイベント開催案を説明。
- ・環境の日イベントは久御山町環境基本条例の周知とあわせて環境に関する意識醸成を図ることを目的に実施し、各種講演やトークディスカッションの実施を検討。

●主な意見・質疑応答

(委員等)

このプロモーションは非常に重要であると思います。内容をしっかりと精査したうえでプロジェクト化することにより情報発信をより伝えやすくすることがありますので、分かりやすさとかキャッチーさは必要になるかと思います。

(委員等)

環境ブランド力を高めるプロモーションはすごく良いと思います。しかし、そう簡単な取組ではないので知恵を出し合わなければならないと思います。

そして、2030年大幅削減、2050年脱炭素を見据えてということであればそれほど時間は残されていません。次回以降の議論になるかと思いますが、プロモーションと同時に効果のあるプロジェクトを打ち出していき、どんどん進めていくことが必要になります。

それから環境の日イベントについて、町内の住民や事業者が対象かと思いますが、対象者をもう少し明確にして、例えば住民や事業者の方が聞いてメリットを感じるような内容や取り組みたいと感じる内容にする方が良いかと思います。

また、講演者やパネラーは若い人を入れていただいたら良いかなと思います。

(委員等)

プロモーションの中の脱炭素農業・住宅・商業ブランドのところは社会実装という視点かと思いますが、一方で先ほどの基本計画の中で担い手育成の重要性の話が出ておりますので、そういった部分のアプローチも必要であると感じています。

例えば、久御山中学校に協力していただき、カリキュラムの中でチームでシリーズ的に環境の勉強をしてもらい、その内容を取りまとめる。そして、その年度において一つの成果発表をしてもらい、次年度の環境の日のイベントで発表してもらえたら取組として続いていくのではないのでしょうか。また子供達にとっても1年かけてしっかり勉強する機会になるのではないかと思います。

(委員等)

確かに海外ですと環境や気候変動センターなどが身近にあり、レクリエーションやゲーム

感覚で学び、当事者意識を高めていく。そして学んだ人たちが発信していくこととなります。このプロモーション事業では、発信の担い手も育てていくことが重要であると思います。

(委員等)

このプロモーション事業は現在の委託事業者がされるのですか。どういう体制で進められるのですか。

⇒ **(事務局)**

次年度の事業ですので、現時点では未定となっています。

⇒ **(委員等)**

申し上げたかったのは、できるだけ企画段階から住民参加のかたちをとって、住民に実行委員になってもらうなどすれば、そこから担い手が見えてくるかなと思います。

次第5 その他事項

(1) 久御山町環境審議会設置要綱について

(2) 住民ワークショップの開催について

(事務局及び委託事業者より資料7、8に基づき一括説明)

●**説明概要**

- ・資料7により、久御山町環境審議会設置要綱についてを説明。
- ・資料8により、令和5年3月25日(土)に開催を予定している住民ワークショップの概要について説明。ワークショップの取組により、住民意見を計画に反映するとともに今後の環境施策の推進に関する担い手を創出していきたい。

●**主な意見・質疑応答**

(委員等)

情報提供ですが、昨年くらいに環境省が脱炭素のカードゲームをつくられています。ゲームでは参加者が自分の役割を持ちながら環境と経済の関係の中でどうすればよいかを考えて行われます。そのカードゲームの体験者に意見を聞くと「かなりおもしろかった」「理解が深まった」という意見がありましたので、まずはゲーム感覚で入ってみると理解しやすいと思います。

(委員等)

カードゲームについては、非常に良いゲームであると聞いていますので、ぜひそういう機会を持っていただけたらと思います。

それとワークショップの参加者をどう募るのかというのも重要かと思います。参加者が偏らないようにバランスをとっていただければと思います。

また、「気候市民会議」という手法もありまして、参加者同士で語り合う前に正しい情報を提供し、最低限の情報を共有したうえで議論していただく方が良い意見がでるかと思います。

(委員等)

カードゲームの体験者として一つコメントいたします。カードゲームではチームを組んで行いますが、友達感覚で会話するようになりますので、機運を醸成するには良いツールであると思います。

⇒ (事務局)

先日、研修会でカードゲームを体験いたしました。

仰るとおり、自分だけでなくいろいろな業界の方々と関係して温暖化を防止していけるということがゲーム感覚で学べたので、どこかの機会です必ず実施したいと思います。

⇒ (事務局)

先ほどありましたワークショップの参加者の募集について、12月のアンケート調査時にワークショップへの参加意向を確認しており、40名ほどの住民の方々が意向を表明しております。現在、改めて出欠確認を行っているところです。

⇒ (委員等)

その方々をぜひ次に繋げていけるように取り組んでいただきたいと思います。

次第6. 閉会

以上